

2024年3月31日

「再会の場所」

マタイによる福音書 28:1-10

竹島 敏牧師

イースターのこの朝、マタイによる福音書は「週の初めの日、すなわち日曜日の朝、まだ暗いうちに、マグダラのマリアともう一人のマリアが、イエスの遺体が納められた墓に行った」と記しています。彼女たちはそこで天使と出会います。天使は、ここにはもうイエスはおられない、と告げます。6節、7節のところですよ。復活されたイエスはガリラヤに行かれた、そこで会えるだろう…、という言葉が告げられます。復活のイエスが、「そこで会おう」と言われたガリラヤ…、そこはいったいどういう場所だったのでしょうか。そこは一見 喜ばしい再会には ふさわしくない場所、様々な 痛み、悩み、苦しみを背負わされて、うめきのうちにその 生涯を終わらねばならないような人たちが 集まって暮らしている場所であったのです。

しかし聖書は今朝、あなたたちがこの世で味わう全ての痛み、全ての苦しみを、すでに主イエスは味わいつくされて、私たちのために復活された、と語るのです。この復活の出来事を、心静かにもう一度見つめてみなさい、と 私たちは今、うながされているのです。そして、どんな時も、主が共にいて導いてくださる…、という信仰に生き抜く生涯を送っていきなさい、と、励まされ、送り出されようとしているのです。人生には様々な困難が伴い、なぜ、あの人に、あんな苦難が、なぜ、この私に、こんな不条理な出来事が、とつづやかざるを得ない 出来事にも出会うけれども、しかし、そのような、つらさの中でこそ 私たちは主イエスとの真実な出会いを得ることができるのです。そしてそれこそが私たちを日々導く強い力となっていくのであり、その力によって私たちは、やがて1つとされ、天、という 私たちの最後の再会の場所へと向かっていくのです。